2019 9.16 vol.898

JA全農ウィークリー WEEKLY

4-5面

各県本部が農機展やフェア

3面

全農の実証農場「ゆめファーム全農とちぎ」の普及版 大規模低コスト耐候性ハウスでトマト栽培（耕種総合対策部）

栽培環境の最適化・低コスト化を実現した大規模ハウス（3面）

「JAでんき」ホームページのトップ画面（8面）

最新鋭の農機などをお披露目した展示会＝秋田で（4-5面）

2 「香港フードエキスポ2019」に出展（輸出対策部・全農インターナショナル香港㈱）

マレーシアで大阪産（もん）をプロモーション（大阪府本部）

3 お米甲子園に特別協賛（米穀生産集荷対策部）

6 フルーツフォトコンテスト「パシャフル！」初開催（長野県本部）

「旅するお米」シリーズ2種発売（岡山パールライス㈱）

7 畜産情勢（畜産総合対策部）

8 「全農オリジナル防災食」3品新発売（くらし支援事業部）

「JAでんき」ホームページ開設（総合エネルギー部）

JAタウンショップ紹介 ＪＡ熊本うきっ子ショップ（JA熊本うき）

『ＪＡ全農ウィークリー』のツイッターはこちらから

Web版JA全農ウィークリーはこちらから ▶▶▶▶▶▶▶

https://www.zennoh-weekly.jp/

Web限定 メディア懇談会を開催（広報・調査部）

News!

「香港フードエキスポ2019」に出展

香港最大級の食品展示会で国産農畜産物などPR

輸出対策部・全農インターナショナル香港㈱

全農グループは8月15～17日、香港最大級の食品展示会「香港フードエキスポ2019」に出展し、国産農畜産物や加工品の商談と即売会を行いました。

展示会には21カ国・地域から企業や団体が出展し、45万人以上が来場。全農グループはJAグループの国産農畜産物や加工品約80品目を出展しました。

今回はこれまでの「展示会出展」から一歩進めて、全農インターナショナル香港㈱が現地のバイヤーと事前にアポイントをとる「商談マッチング形式」で行い、68社と商談し協議を継続しており、受注獲得に取り組んでいます。

最終日には、一般来場者向けに国産の桃や加工食品を中心に即売会を実施しました。また、リピート購入につながるよう、今年7月に開設したECサイト「JAショップ香港」のPRも行いました。こちらもぜひのぞいてみてください。

全農ブースを訪れた吉川貴盛農水大臣(左から2人目)と全農の山﨑周二理事長(同1人目)

事前にアポイントをとり現地バイヤーと商談

「JAショップ香港」はこちらから↓

News!

マレーシアで大阪産(もん)のプロモーション実施

和食レストランで商談会・食材提案会、百貨店で物産展

大阪府本部

大阪府本部とJA大阪中河内は8月7～9日、マレーシアのクアラルンプールで大阪産(もん)プロモーションを実施しました。海外への大阪府産農産物の売り込みは、香港に続く2カ国目となります。

今回の活動は、大阪府が日本貿易振興機構(ジェトロ)や関西・食・輸出推進事業協同組合などとともに、大阪産のマレーシアでの販路拡大を目的に実施し、大阪府本部は「泉州水なす」「泉州たまねぎ」、JA大阪中河内は「柏原ぶどう(デラウェア)」をPRしました。

8日にクアラルンプール中心部の和食レストランで現地輸入業者や外食店向けに商談会、食材提案会を実施。同日、ジェトロ・クアラルンプール事務所で現地企業と意見交換を行い、マーケット需要や企業ニーズをヒアリングしました。

9日にクアラルンプール伊勢丹KLCC店で開いた関西物産展で、現地消費者に大阪府産農産物の魅力を発信しました。

クアラルンプール中心部の和食レストランで開いた商談会の大阪産ブース

クアラルンプール伊勢丹KLCC店で開いた関西物産展で大阪府産農産物の魅力発信

News!

大規模低コスト耐候性ハウスでトマト栽培スタート

全農の実証農場「ゆめファーム全農とちぎ」の普及版

耕種総合対策部

全農が運営する実証農場「ゆめファーム全農とちぎ」の農場運営・栽培提案を採用した㈱小林菜園（栃木県小山市）の大規模低コスト耐候性※ハウスでのトマトの栽培が、8月20日に始まりました。

このハウスは施工管理を栃木県本部の代行施行で、今年6月に完成。90アールの土耕栽培で、大規模施設向けに改善した栽培環境の最適化・低コスト化を実現しました。約2万1600本のトマトの定植が完了し、年1作の長期多段採り栽培で年間300トン以上の出荷を目指します。

JA・全農グループは、手取り最大化のため、土壌診断・肥料設計・苗の供給・生育調査・労務管理などあらゆる角度から支援していきます。

また、全農職員が研修として定植作業を行いました。この経験を、生産者・JAへの対応に生かしていきます。

※屋外の太陽光・風雨・温度変化などに対する耐久性。

栽培環境の最適化・低コスト化を実現した大規模ハウス

トマトの定植をする全農職員

News!

全国農業高校 お米甲子園に特別協賛

高校生が育てた米のおいしさ競う 最高位の学校へ全農賞

米穀生産集荷対策部

全農は、12月1日に千葉県木更津市で開かれる「第10回全国農業高校 お米甲子園」（お米甲子園）に特別協賛します。

お米甲子園は、高校生たちが育てたお米を、穀粒判別器・食味分析計・味度計といった機械による鑑定と、人による官能検査で、そのおいしさを競う大会です。全農は、お米甲子園の最高位「最高金賞」を獲得した高校に副賞として「全農賞」を贈ります。

この大会は、食・農の未来を担う高校生たちが、「日本のお米」に誇りを持ち、その伝統を受け継ぐとともに、さらなる発展を目指してほしいとの趣旨で開催されるもので、今回で10回を迎えます。

開催内容の詳細は、主催者の米・食味鑑定士協会ホームページをご覧ください。

全農は、大会への特別協賛を通じて、農業高校生のお米づくりに対する情熱を応援するとともに、国産米への関心を高めて、消費拡大を進めていきます。

米・食味鑑定士協会
ホームページは
こちらから
↓

各県本部が農機展やフェア

各県本部はそれぞれ、最新鋭や中古農業機械の展示・フェアを開きました。
共同購入トラクター、農業用ドローンなどが来場者の注目を集めていました。【各県本部】

第32回秋田県JA農業機械大展示会

秋田県本部

秋田県本部とJAグループ秋田は6月19～21日、秋田市内で「秋田の未来へ、スマート農業始動!!」をテーマに「第32回秋田県JA農業機械大展示会」を開き、期間中約4500人の来場者でにぎわいました。

約30のメーカー各社が最新農機など500種を展示したほか、無人トラクターや自動操縦農機、農業用ドローンなどICT・IoT技術を用いた「未来の農業」を生産者に分かりやすく提案、肥料や農薬、農業資材の展示、営農や資金に関する相談コーナーも設けました。

また、秋田県農業の「未来の担い手」である農業高校生を招待し、最新農業機械や最先端農業技術を紹介しました。

県内の農業高校生を招き、最新農業機械や最先端農業技術を紹介

第20回パワフルアグリフェア

栃木県本部

栃木県本部は7月20、21日、宇都宮市でJAグループ栃木の総力を結集した農機等大展示会「第20回パワフルアグリフェア」を開きました。

ロボットトラクターやドローンといったICT農機など、各メーカーの協力により約1000台の農業機械の展示・実演を行いました。肥料農薬の省力銘柄紹介や営農情報の発信なども併せて実施し、自己改革の〝見える化〟を図りました。

来場者の注目を集めたロボットトラクター

アグリマシンフェア2019

群馬県本部

群馬県本部は県内JAと共催で7月13、14日、前橋市の県本部総合センターで「アグリマシンフェア2019」を開きました。約40の企業・団体が出展し、趣向を凝らした展示や実演で最新技術をPRしました。

会場には共同購入トラクターを展示し、共同購入による農業機械導入コスト低減を提案したほか、セルフメンテナンス講習会や農薬散布用ドローンのデモフライトなども行われ、2日間で約5600人が来場し、大いににぎわいました。

農業機械導入コスト低減へ共同購入トラクターを展示

2019農業機械展示予約会

神奈川県本部

神奈川県本部は8月2、3日、平塚市の田村事務所で「2019農業機械展示予約会」を開き、約2000人が来場しました。

「JAグループ神奈川推奨型式」のブースでは、農薬散布作業の負担を大幅に軽減する背負動噴を新たに加え、20種類の指定農機を展示しました。生産現場のニーズを基に厳選し、メーカーからの一括仕入れにより低価格を実現している同型式は、組合員から多くの支持を得ています。今後も同型式の拡充を通じて生産資材コストの低減に努めていきます。

会場入り口隣のブースに並ぶ20種類の神奈川推奨型式

富山県本部

農機フェア2019

富山県本部は7月6、7日、富山市の富山産業展示館で「農機フェア2019」を開き、農機メーカー約35社が大型農機から小型農機まで約1000点を展示しました。

今年は、「ICT（スマート）農業、農作業の効率化・省力化」をテーマとし、ドローンのデモ飛行やミニ耕耘機（こううんき）の実演のほか、低コスト資材・省力技術の提案などを行いました。

会場は終日にぎわい、2日間で約7000人が来場しました。

ドローンのデモ飛行

滋賀県本部

祝！令和元年 農業機械展示会

滋賀県本部は7月12、13日に長浜市のJA全農しが長浜農機センター、19、20日にJAグリーン近江竜王支店、26、27日は甲賀市のJA全農しが甲賀農機センターの3会場で「祝！令和元年 農業機械展示会」を開きました。

トラクターやコンバインなどの大型農機をはじめ、秋物商品なども多数展示したほか、米の刈り取りに向けたコンバインのメンテナンス講習会を実施、連日多くの人に足を運んでいただき、大盛況でした。

ドローンやコンバインなどを展示

鳥取県本部

農機サマードリームフェア2019

JAグループ鳥取は6月29、30日にJA鳥取いなば、7月5、6日に㈱JA中央サービス、7月14、15日にJA鳥取西部の3会場で農機サマードリームフェア2019を開きました。

各会場では最新農業機械の展示や実演コーナーを設けての紹介、コスト低減、省力化の情報提供を行いました。3会場で合わせて3300人が来場し大いににぎわいました。

県内3会場で開いた農機サマードリームフェア2019

岡山県本部

第35回岡山県中古農業機械モデルフェア

岡山県本部は岡山県農業機械商業協同組合と合同で8月2、3日、岡山市内で第35回岡山県中古農業機械モデルフェアを開きました。

早朝から、農産物の生産コストを抑え営農を継続したい多くの購入希望者が、出品された約300台のトラクター、コンバイン、田植え機、管理機などの点検整備された中古農機からお目当ての商品探しでにぎわいました。

点検整備された中古農機がずらりと並んだ会場

大分県本部

JA農機フェア2019

JAグループ大分は8月7、8日、大分市内で「JA農機フェア2019」を開き、約2100人が展示会場を訪れました。

会場には多くの農業機械が展示され、なかでも会場入り口に展示された共同購入トラクターの周りには多くの人だかりができるなどにぎわいを見せました。

毎年好評のおコメの食味検定サービスや県産品などが当たるお楽しみ抽選会も行われました。

共同購入トラクターの周りには多くの人だかり

News!

フルーツフォトコンテスト「パシャフル!」を初開催

長野県産果物いっぱい食べて 若者にアピール

長野県本部

長野県本部は、若者の果物離れを食い止めるため、SNSを活用した消費宣伝活動を行っています。今回、フルーツフォトコンテスト「パシャフル!」を初めて開催します。このコンテストを通じて、若者が果物に接する機会を増やすことを目指しています。

このコンテストはインスタグラム公式アカウント「@shinshufruits」をフォローいただき、「#ながののくだもの」を付けて、長野県産フルーツを使った料理やフルーツにかぶりつく写真を投稿していただくキャンペーンです。どなたでも参加いただけます。

入賞作品（3人）には高級家電を、入選作品（100人）にはギフトカード1000円分を差し上げます。投稿締め切りは10月31日（木）です。

詳細は「パシャフル!」で検索してください。

パシャフル特設サイトはこちらから →

News!

「旅するお米」シリーズ2種を発売

日本各地のお米で「毎日の食事を旅気分に」

岡山パールライス㈱

岡山県本部の子会社「岡山パールライス株式会社」は8月19日、〝産地〟にフォーカスした新商品「旅するお米シリーズ」の販売を始めました。

「旅するお米」シリーズは、「毎日の食事を旅気分に」をコンセプトに、自宅に居ながら、日本各地の名所を旅するような気分で、さまざまな地域・品種のお米を手軽に楽しんでもらいたいという思いで作った商品です。

近年、1人当たりの米の消費量が年々減少している中で、今後は、量（安くたくさん食べる）より質（茶わん1杯を楽しむ）を求める消費者が増えると考えています。そこで、手頃な価格で、茶わん1杯のご飯を楽しむことができる商品を開発しました。

「旅するお米」シリーズは、「富良野ななつぼし」「四万十こしひかり」を皮切りに、今後も随時ラインナップを追加予定です。

「旅するお米〈富良野ななつぼし〉」（左）と「同〈四万十こしひかり〉」

商品概要

1.商品名：「旅するお米〈富良野ななつぼし〉」・「旅するお米〈四万十こしひかり〉」
2.容量：2kg
3.販売店舗：岡山県内のスーパー、百貨店（今後県内外に拡大予定）
4.発売日：令和元年8月19日

[畜 産 情 勢]

（畜産総合対策部）

牛 肉　和牛は7月並み、交雑牛やや強含み

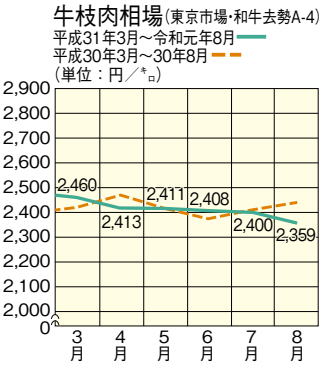
8月の成牛と畜頭数は、速報値で約7万5千頭(前年比90.4%)と前年を下回りました。

8月の東京市場枝肉卸売価格は速報値で、和牛去勢A5が2645円(前年比95.0%)、和牛去勢A4が2359円(同96.7%)、和牛去勢A3が2152円(同97.5%)、交雑牛B3が1653円(同 107.2%)、乳牛去勢B2が1028円(同98.9%)でした。

農畜産業振興機構が公表した9月の国内出荷予測頭数を品種別にみると、和牛が約3万7千頭(前年比109.7%)、交雑牛が約1万9千頭(同98.6%)、乳用種が約2万7千頭(同 99.5%)で、全体では約8万5千頭(同 103.7%)と見込んでいます。

8月の枝肉相場は、全体的に荷動きが鈍い中で、和牛はやや弱含みからもちあい、交雑牛は出荷頭数が少ないこともあり比較的堅調でした。

9月の枝肉相場は、量販店による産地フェア開催が増えると見込まれ、これにより相場が締まってくることも期待されますが、ユーザー需要は活発であるとは言い難く、和牛は7月並み、交雑牛は8月との比較でやや強含みと予測します。



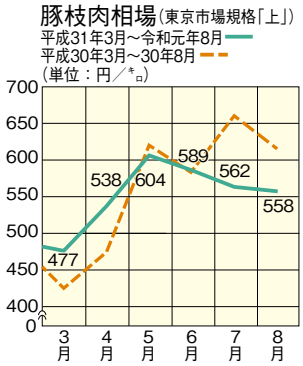
豚 肉　秋口を目指して弱含み

8月の全国と畜頭数は、速報値で約120万頭、前年同月比90.8%となっています。

8月の東京食肉市場枝肉相場は、速報値で558円/kg（前年同月比90.6%、前月比99.3%）となりました。猛暑の8月は、梅雨寒を背景とした7月の早出し傾向から一変し、厳しい気候を背景に肉豚の出荷は全国的に大きく鈍る形となりました。今年の8月は、暦の兼ね合いでお盆時期での各食肉市場の休みが長く、お盆明けのタイミングで加工筋による枝肉の手当てが集中したことにより相場が上昇する場面も見られましたが、需要筋の販促が依然輸入物にシフトしていることもあり、加工筋の手当てが一段落した時点で下落する相場展開となりました。

農畜産業振興機構発表の9月出荷予測頭数は、約132万頭(前年同月比104.8%)です。

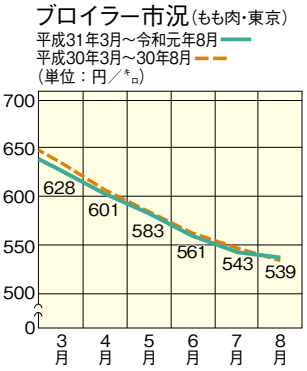
国内推定在庫が例年以上に多い20万トン台を維持している状況下、需要筋における売り場も、9月いっぱいまでは輸入物を中心とした売り場構成になることが見込まれています。他方、供給面では疾病の影響や残暑厳しい気候を背景に、肉豚の出荷は鈍るものの、相場を押し上げるまでの効果は期待できず、昨年同月のような相場展開とはならないものの、相場は秋口を目指して弱含みで展開していくものと予測します。



鶏 肉　もも肉545円、むね肉は235円

8月の平均相場は、もも肉535円/kg（前月比8円下げ）・むね肉225円/kg（同3円上げ）、正肉合計で760円/2kgと前月比5円下げで前年比でも42円の下げとなりました。例年、お盆期間に約1週間休載期間があることで月中で乱高下があるところ、ほぼもちあい圏内で推移しました。もも肉は月初め529円で始まり、月末は539円で結果10円高となりました。むね肉も、加工向けに一定の需要があり、月初222円・月末229円とじり高となりました。

気象庁の1カ月予想では、9月の気温は全国的に平年並みかやや高いとしています。学校給食が始まり、3連休も2度あることからイベントなどが増え、需要増加による底上げが期待できるため、もも肉は月平均 545円と予測します。むね肉についても、加工やサラダ向けなど加工筋の引き合いも堅調で若干上げ基調の月平均 235円と予測します。

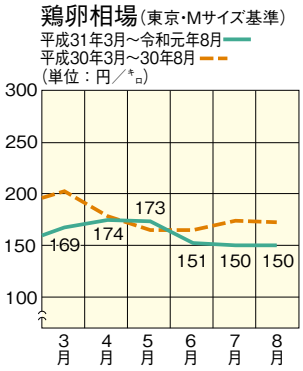


鶏 卵　強含みの展開

8月の東京相場の月間平均は、Mサイズ基準値 150円(前年比△ 22円)となりました。大玉サイズは、供給量が減少したことで強含みの展開となりましたが、Mサイズに関してはもちあいの展開が続きました。

8月は全国的に気温が高い日が続いたことから、大玉に関しては需給が逼迫（ひっぱく）し、大玉高の展開となりました。中玉以下のサイズに関しては、お盆期間において問屋筋などが休業することから、産地在庫が増大する懸念もありましたが、成鶏更新・空舎延長事業や誘導換羽などの生産調整の影響によって供給量が減少し、もちあいの展開が続きました。

今後については、鶏卵を使用した大手外食チェーンのプロモーションや学校給食の再開によって問屋筋の復調が予想されるなど、需要面に好材料が多いことから強含みの展開が考えられます。ただし、成鶏更新・空舎延長事業が停止したことで供給量の増加傾向が強くなれば、今後の相場展開に影響を与えることも推測できます。



あぐりずむ WEEKEND
JA全農提供FM番組（TOKYO FM／JFN38局）
毎週土曜日9:30～9:50（放送曜日・時間はFM局で異なります）
生産者の熱い思いをお届け!

非常時こそ国産原料でおいしく楽しく「全農オリジナル防災食」3品を新発売！

全農は9月から、国産原料を使用した長期保存食「全農オリジナル防災食」3品を発売しました。【くらし支援事業部】

発売するのは、水道やガスなどのライフラインが分断された時でも、水なしですぐに食べられるレトルト米飯（各260g）で、7年間の常温保存が可能です。

また国産の米・野菜・もち麦を使用し、食物アレルギー特定原材料など27品目は不使用のため、安心して食べられます。

デザインは災害時でも食事を楽しんでもらえるように、ポップで明るいイラストを使用しています。

全農は、「全農オリジナル防災食」などの販売によって国産農畜産物を消費者にお届けするとともに、国内農業振興を図っていきます。

全農オリジナル防災食
五目ごはん

全農オリジナル防災食
野菜カレーごはん

全農オリジナル防災食
和風きのこごはん

JAでんきホームページ開設

お得な料金で生活・営農のコスト削減

9月4日、電力小売事業「JAでんき」のホームページがオープンしました。【総合エネルギー部】

全農グループでは、農家組合員の家計負担の抑制、営農活動におけるコスト削減を目的に、電力小売事業「JAでんき」を展開しています。

ホームページでは「JAでんき」の特長・料金プラン・手続きの流れなどを掲載しているほか、「JAでんき」へ切り替えた場合の電気料金のシミュレーションができます。

ぜひ「JAでんき」への切り替えをご検討ください（北海道、沖縄、一部離島は対応しておりません）。

「JAでんき」ホームページはこちら

「JAでんき」ホームページのトップ画面

JAタウンショップ紹介

JAタウン | 検索 クリック

JA熊本うきっ子ショップ（JA熊本うき）

JAタウンはこちらから

宇城のおすすめ【利平栗】Lサイズ約2kg【100箱限定】……3980円

※数量限定品のため完売の場合があります

熊本の気候は栗の栽培に大変適し、「コクがあり甘味の強い栗」と好評を得ています。

JA熊本うきは、8月下旬から10月上旬にかけて「丹沢（たんざわ）」「杉光（すぎひかり）」「ぽろたん」「利平（りへい）」「筑波（つくば）」などの品種をリレー出荷しており、生産者は鮮度を落とさないよう早朝の気温が低い時間に収穫し、家庭選別で一つ一つ果実を厳選し、出荷になるまでには3回の選別をクリアした果実を出荷しています。

今回は厳選された栗の中でも、9月中旬から出荷が始まる利平栗のご紹介です。大粒で和栗の中でも甘味が強く、煮崩れはしやすいものの茹でるだけでもおいしい栗です。おいしい秋の味覚を熊本よりお届けいたします。この機会にぜひ、ご賞味ください。

※煮崩れしやすく加工には不向きです。

JA全農のインターネットショッピングモール
▶ご注文は http://www.ja-town.com
▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。

発行／全国農業協同組合連合会　2019年（令和元年）9月16日発行（毎週月曜日発行）
第3294号　編集・発行人／広報・調査部　落合成年
〒100－6832 東京都千代田区大手町1丁目3番1号JAビル　TEL03（6271）8055

休刊のお知らせ
9月23日号は休刊いたします。
次号は9月30日号です。

私たち全農グループは、生産者と消費者を　安心で結ぶ懸け橋になります。